

Symbio Mail Magazine

最終号 No. 12 (2024年6月発行)

目次

令和5年度の事業報告

令和6年度の事業体制と取り組み

令和6年度第1回シンビオ講演会の報告

シンビオ・クイズ シンビオの温故知新

令和6年度総会は5月20日ZOOMによる遠隔方式で開催しました。このメルマガ発行は今回が最終号になりますが、本号では当日の令和5年度事業の総括と令和6年度の事業体制と計画、その後開催した第1回シンビオ講演会を中心にお知らせします。なおクイズでは、最終号でもありシンビオ活動の温故知新を紹介するものとなりました。

令和5年度の事業報告

当令和5年度は、京大エネルギー理工研Ze研究拠点への応募によって民間法人からの賛助金減少を補うとともに、有志の会員寄付金収入があり、活動が継続できました。

研究調査では、Ze研究拠点支援により提案型共同研究『複雑なエネルギーシステムの先進的な故障診断・信頼性評価手法の実験研究』と研究集会『エネルギー科学のためのパブリックアウトリーチのためのアクティブラーニング』を実施。

国際交流では昨年に引き続き、中国広州華南理工大学楊軍准教授によるプロジェクト『原子力安全と緊急時対応のためのリスク情報に基づく知的意思決定支援のための要素技術の研究』に関する国際共同研究プロジェクトに協力して中国側研究者の来日に合わせて京都でワークショップを開

催した外に、令和6年3月29日には当会の五福明夫理事が岡山県立大学（総社市）で開催した国際会議『機能モデルと社会技術システムに関する国際ワーク ショップ FMWS2024』に協力し、それに先立ってプレ FMWS 京都ワークショップ『複雑なエネルギーシステムのための人間機械システム高度化の研究に関する専門家ワークショップ』を宇治キャンパスで3月26-27日に開催しました。これらの詳細はシンビオ N&R に掲載し、会員や社会への還元を図っています。



2024/3/29 岡山県立大学での FMWS2024 参加者の記念写真

令和6年度の事業体制と取り組み

昨年度は当会の運営体制の全体的な若返りと活性化を意図して1年かけて検討する特別諮問委員会を理事会に設けましたが期待した答申には至らず解散しました。そのため令和6年度は吉川榮和理事が1年間会長を続投し、概委員会の委員だった吉川暹理事と森下和功理事を新たな副会長として事業計画を検討し、当会の事業体制を一新し、新しい展開に結びつける過渡的な年として2050年カーボンニュートラル実現に向け、原子力、再生可能エネルギー、化石エネルギー等を対象に、サステナブルな社会を実現するためのベストミックスの議論を深化する方向で取り組むことに致しました。5月20日の総会およびその後の理事会

シンビオ社会研究会 〒611-8202 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学エネルギー理工学研究所内

E-Mail: symbio.reserch.office@gmail.com HP: <http://sym-bio.jpn.org/homepage.php>

で確定した今年度の役員の構成は以下の通りです。

役職	氏名
理事 会長	吉川榮和
理事 副会長	吉川 暹
理事 副会長	森下和功
理事	五福明夫
理事	石原慶一
理事	永里善彦
理事	中村洋之
理事	新田純也
理事	堀池 寛
理事	安部正高
理事	篠原真毅
理事	塩路昌宏
理事	大鋸谷将樹
理事	森井 孝
理事	路次安憲
理事	三島嘉一郎
監事	吉田民也
監事	藤井有蔵

(任期は1年間の吉川榮和理事以外はすべて令和8年5月19日まで)

令和6年度第1回シンビオ講演会の報告

先端エネルギー科学への一般社会や若い世代の関心を高めるためのパブリックアウトリーチ活動として「福島第一原発事故の検証」と「ナノ炭素物質」をキーワードに第1回シンビオ講演会を5月20日に開催しました。

「福島第一原発事故と検証報道」と題し岡本賢一郎氏（NHK ニュースデスク）は、科学技術システムの大事故の典型としての福島第一原発事故時の報道関係者の疑問に答えるための専門家の事故検証番組への協力が原発のような巨大システ

ムへの事故時対応の在り方に 専門家たち自身の理解の深まりに寄与しただけでなく、第三者としての報道者の福島事故の検証活動の報道を振り返って、原子力発電が包含しているトランスサイエンス問題（科学技術者だけでは決めることのできない問題）も具体的に指摘しました。ナノ炭素物質の量子物性を活用した新しい光・熱エネルギー変換技術の開拓と題する宮内雄平氏（京大エネルギー理工研）の講演は、これまで太陽光利用と言えば半導体による発電か太陽光をレンズで集光して熱電変換する方法のいずれも変換効率が低いというこれまでの常識を覆す新たな科学研究の芽生えを紹介された。新しい太陽熱エネルギーの利活用技術の可能性を拡大するためにカーボンナノチューブ（CNT）の高温でも安定な量子物性に着目したもので、将来はノーベル賞にもつながる新たな研究領域に挑戦されている最新情報を紹介いただきました。この度の講演会では。会場には12名（うち学生3名：男子2名、女子1名）、またWebを通じて33名が参加し、合計45名が参加しました。



2024/5/20 第1回シンビオ講演会会場風景

シンビオ・クイズ 京の温故知新探訪

シンビオて何？どんなことをしてきた？

(クイズの回答は📄・・・[こちら](#))



シンビオ社会研究会への
E-Mailは [こちら](#)



シンビオ社会研究会 〒611-8202 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学エネルギー理工学研究所内
E-Mail: symbio.reserch.office@gmail.com HP: <http://sym-bio.jpn.org/homepage.php>